

2021年3月期 ― 中間報告書

2020年4月1日～2020年9月30日

「2030年、共創ITカンパニー」を目指し、 新中期経営計画をスタートさせました

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

本冊子では、2021年3月期上半期の連結業績の概要とともに、前中期経営計画の結果および2021年3月期を初年度とする新中期経営計画への取り組みなどにつきましてご報告させていただきます。



代表取締役
社長執行役員
最高執行責任者

谷原 徹

2021年3月期 上半期連結業績

当上半期（2020年4月1日～9月30日）の売上高は、通信業向けネットワーク機器販売の反動によりシステム販売が減収となりましたが、製造業等のシステム開発および保守運用・サービスの増収や、(株)Minoriソリューションズの新規連結によって、前期比1.3%増の189,755百万円となりました。営業利益は、増収に伴う増益に加え、不採算案件の改善、前期に追加認識した業績賞与の反動の影響等で売上総利益が増加したことにより、販管費の増加を吸収し、前期比4.0%増の21,217百万円となりました。

■ 要約連結損益計算書

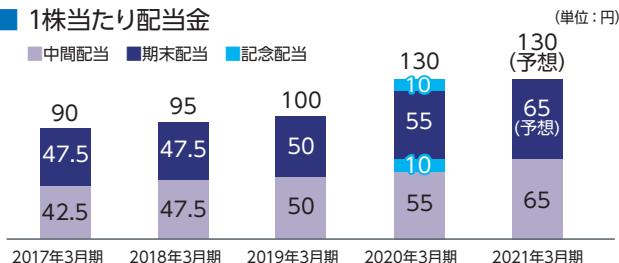
	上半期	増減率(前年同期比)
売上高	1,897億円	1.3%
売上総利益	489億円	3.9%
営業利益	212億円	4.0%
営業利益率	11.2%	0.3pt
親会社の所有者に帰属する四半期利益	148億円	2.5%

2021年3月期 通期連結業績予想について

当上半期は増収増益となり、顧客のIT投資動向は、回復基調にあると感じているものの、新型コロナウイルス感染拡大は未だ終息を見せていない環境下において、力強さに欠ける部分を含め不透明感は継続しているととらえていることから、2020年4月28日に公表しました業績予想を変更せず、売上高3,800億円、営業利益410億円、親会社の所有者に帰属する当期利益は290億円に据え置くことといたしました。

	2020年3月期	2021年3月期(予想)
売上高	3,852億円	3,800億円
営業利益	400億円	410億円
営業利益率	10.4%	10.8%
親会社の所有者に帰属する当期利益	287億円	290億円

■ 1株当たり配当金



詳細な数値情報は
以下よりご確認ください。

<https://www.scsk.jp/ir/data/index.html>



前中期経営計画の振り返り

当グループでは、2015年4月から2020年3月までの前中期経営計画において「事業構造の転換(脱労働集約型ビジネス)・ダイナミックな成長戦略を実行し、高収益成長を目指す」ために、3つの基本戦略を推進しました。

その結果、この5年間で売上高は30.0%、営業利益は51.1%伸長し、2020年3月期の売上高は3,870億円、営業利益は423億円となり、いずれも過去最高値を更新しています。経営目標として掲げた営業利益500億円については、戦略的事業の収益化に遅れが生じたものの、既存事業とサービス提供型ビジネスへのシフトにより創出する400~450億円の営業利益目標は計画通り進捗いたしました。

■ 前中期経営計画の総括

	2015年3月期	2020年3月期		
	実績	目標	実績	2015年3月期比
売上高	2,976億円	—	3,870億円	+30.0%
営業利益	280億円	500億円	423億円	+51.1%
営業利益率	9.4%	10~12%	10.9%	+1.5pt
ROE	12.4%	15%	15.6%	+3.2pt
EPS	150円	320円	300円	+150円

※上記数値は日本基準となります

基本戦略

主な成果と振り返り

サービス提供型 ビジネスへの シフト

- 当社が保有するノウハウや知見、知的財産を活用して、標準的かつ汎用的な業務オペレーションを共同利用型システムとして提供するサービス「サービス提供型ビジネス」を拡充し、労働集約型ビジネスからの脱却を推進
- ビジネス規模は全社売上高の約20%を占める規模(800億円)に拡大

戦略的事業の 推進

- 車載システム基盤であるBSW(Basic Software)を自社開発し、自社製品である「QINeS-BSW」を市場リリース
- 自動車市場の変化に伴い、当初計画よりも収益化に遅れが発生し、本中期経営計画期間内での黒字化達成ならず

グローバル展開 第2ステージ

- 日系企業の現地法人のIT構築支援など、さまざまなITサービスのさらなるグローバル展開を推進
- ミャンマー、インドネシアに拠点を新設し、ASEAN地域における事業基盤を強化

2030年、共創ITカンパニーへ

SCSKグループの経営理念の実現に向けて7つのマテリアリティを策定しました

近年、AIなどの先端技術が目覚ましい進歩を遂げる一方、地球温暖化や地域格差の拡大などの社会課題が深刻化しています。それに伴い企業には、業種・業界を問わず、事業を通じて社会課題を解決し、社会と共に持続的に成長することを目指す経営が求められています。

このような背景を受け、SCSKグループでは経営理念「夢ある未来を、共に創る」の実現に向けて、社会が抱えるさまざまな課題を事業視点で評価し、社会と共に成長するために、特に重要ととらえ、優先的に取り組む課題をマテリアリティとして策定しました。



社会課題解決を通じた持続的な事業成長

事業活動を通じて「3つの社会」を実現することで、社会の課題を解決し、持続的な事業成長を目指していきます。3つのマテリアリティは相互に関連しあい、「ITの、つぎの、幸せへ」とつながります。

持続的な成長を支える基盤

ESGを主軸にした取り組みを加速させることで、SCSKの経営基盤を盤石にすると同時に、上部に位置する3つのマテリアリティの実現に向けた基盤をつくっています。

○ マテリアリティ項目と具体的な取り組み例

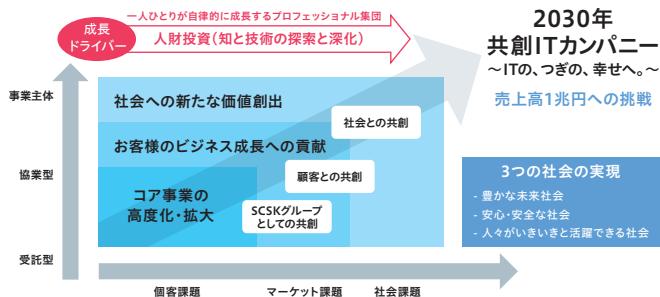
マテリアリティ項目	具体的な取り組み例	関連するSDGs	
豊かな未来社会の創造	<ul style="list-style-type: none"> AI活用への取り組み DX事業化推進 	<ul style="list-style-type: none"> 技術力・開発力の向上 (先進デジタル技術への対応) 快適なモビリティ社会の実現 	
安心・安全な社会の提供	<ul style="list-style-type: none"> 安心を支える社会インフラ運用 (システム面、業務面) サイバーセキュリティ 	<ul style="list-style-type: none"> プラットフォームサービス (特定業界や業務/高齢者向けなど) 金融不正取引検知システム 	
いきいきと活躍できる社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革を支えるICTソリューション グローバルビジネスサポート 	<ul style="list-style-type: none"> ニアショア拠点展開 (地方都市振興、地方人材育成) 	
地球環境への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 環境アクションプランの推進 環境負荷低減への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷低減ソリューションの開発 再生可能エネルギーの活用 	
多様なプロフェッショナルの活躍	<ul style="list-style-type: none"> 社員の持続的な能力開発と多様なキャリア開発の支援 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人材が活躍する環境整備 (働き方改革、健康経営、ダイバーシティ) 	
健全なバリューチェーンの確立	<ul style="list-style-type: none"> パートナー企業との連携を通じた品質・生産性向上 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト・開発工程の品質向上 サステナビリティ方針の共有・実践 	
透明性の高いガバナンスの実践	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス遵守、人権配慮 適切な情報・リスク管理の実践 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な成長を実現するガバナンス体制の維持・強化 	

2030年の目指す姿として「ブランドデザイン2030」を策定しました

ITサービスの世界は、今、大きな変化の波のなかであり、加速する事業環境の変化のなか、企業が持続的な成長を果たしていくためには、目先の変化だけにとらわれず、より長期的な視点から社会の本質的な変化をとらえる必要があります。

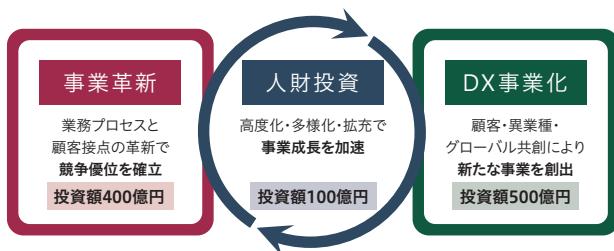
そこで社会と共に持続的発展を目指し、「SCSKグループの姿を抜本的に変革する中長期戦略」を策定することが不可欠と考え、2030年の目指す姿として「ブランドデザイン2030」を策定しました。このブランドデザイン2030では、「共創ITカンパニー」の実現と「売上高1兆円への挑戦」を掲げています。

2030年に向けた成長ビジョン



新中期経営計画

「2030年 共創ITカンパニー」の実現に向けて、新中期経営計画では、3つの基本戦略「事業革新」「DX事業化」「人財投資」および、これらを支える3つの経営基盤強化策「グループ総合力強化」「人を活かす経営の推進」「共創の企業文化づくり」に取り組みます。



経営基盤強化

グループ総合力強化
(組織間連携の推進)

人を活かす経営の推進

共創の企業文化づくり

■ SCSKの強みを活かしたグループ総合力の強化

- 多様なサービスラインナップ
- 全業種を網羅する広範な顧客基盤8,000社
- 実績を伴うグローバルネットワーク

■ 社員が“いきいき”と活躍する会社へ

- 健康経営×働きやすさ×働きがいの推進
- 高エンゲージメント組織の実現

■ ダイバーシティ & インクルージョン

■ “私たちが”つなげる、融合する

- 他社から学ぶ、他社を活かす

■ 数値目標

	2020年3月期	2023年3月期
	実績	目標
売上高	3,852億円	5,000億円以上
営業利益率	10.4%	10.0~12.0%
ROE	15.0%	15%以上

■ 資本効率性指標

中期経営計画期間のROIC維持目標レベル: **10~12%**

基本戦略の具体的な方針

詳細は統合報告書よりご確認ください

<https://www.scsk.jp/ir/library/report/index.html>



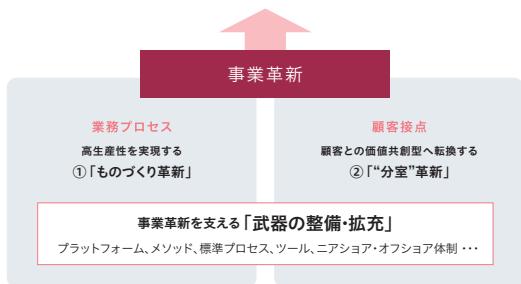
事業革新

「事業革新」では、コア事業の高度化・拡大に向けて、SCSKグループの業務プロセスと顧客接点を「ものづくり革新」「分室革新」という2つの視点で革新していきます。経済産業省が公表しているDXレポート「2025年の崖」では、多くの日本企業が抱える課題として「レガシーシステムの老朽化、ブラックボックス化、コストの肥大化」と「少子高齢化などによるエンジニア不足」が提示されています。

SCSKグループは「事業革新」によって、これらの課題に起因した「データ連携、データ利活用の遅れ」を解決へと導き、強気に支援していきます。

多くの日本企業が抱えるシステム課題（2025年の崖）

- レガシーシステム問題（ブラックボックス化、老朽化、肥大化、複雑化）
- 個別最適システムによる、データ連携・データ利活用が進まない
- ユーザー企業のエンジニア不足・・・など

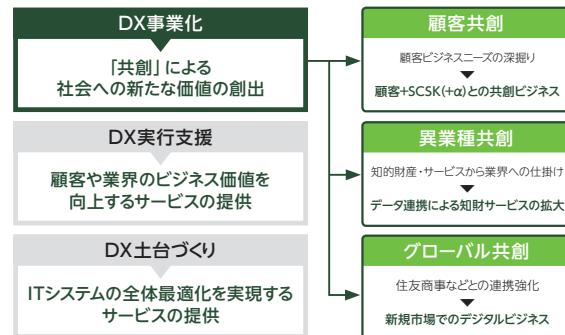


DX事業化

SCSKグループが取り組むDXには、「DX土台づくり」「DX実行支援」「DX事業化」の3つがあります。

「DX土台づくり」と「DX実行支援」は、コア事業として現在の取り組みを一層加速させ、顧客や業界の成長を支えていくものです。一方、「DX事業化」は、コア事業の強みを活かしつつも、従来の受託型とは異なり、自ら事業主体となって「共創」し、社会に新たな価値を創出するというものです。

基本戦略の一つである「DX事業化」の実現に向けて、SCSKグループは「顧客との共創」「業界をターゲットとした異業種共創」「住友商事などとのグローバル共創」、この3つの「共創」に焦点をあてて取り組んでいきます。

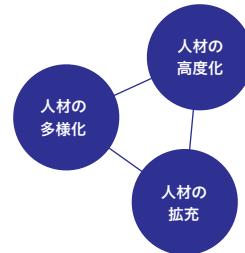


人財投資

SCSKグループの最大の財産、かつ成長の原動力は「人」です。人材の「高度化・多様化・拡充」の観点で、「人」への投資を積極的に行い、事業成長を加速させます。

投資の観点としては、人事制度の刷新、多様な人材

の共創の促進に向けたダイバーシティ&インクルージョンの実践、国内外の人材拡充を中心として実行していきます。



ニュース & トピックス ~WithコロナにおけるSCSKの取り組み~

自宅でできるワークショップコンテンツ 「#おうちCAMP」を提供開始

CAMP (キャンプ: Children's Art Museum & Park) は、グループでの共創活動を通じて、いろいろな表現方法を学ぶとともに、さまざまな意見を持った仲間の多様性に触れることができる、こどもたち向けのワークショップ活動です。

普段のCAMPでは、会場に集まったこども同士がグループワークで創作活動を行います。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、自宅でできるワークショップコンテンツ「#おうちCAMP」の提供を開始しました。

「#おうちCAMP」について

CAMPで開催しているワークショップを、自宅でも実施できるようにアレンジし、提供しています。

親子でアイデアを出し合ったり、絵を描いたり、工作したり。また、大人だけでの参加も可能です。

ワークショップの詳細は、[「SCSK CAMP」](#)で検索

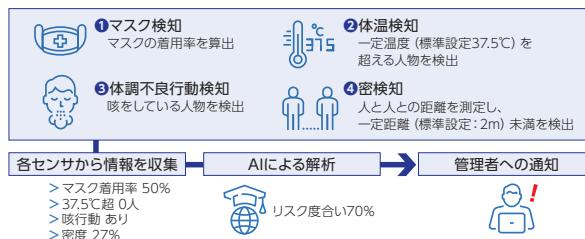


SCSK CAMP

検索

画像解析AIを活用した新型コロナウイルス対策 ソリューション「Pan de seek」を提供開始

SCSKでは、AIとカメラ映像を組み合わせ、その場所の総合的なリスク度合いを検知・解析し通知するソリューション「Pan de seek (パンデシーク)」を、2020年9月3日から提供いたしました。「Pan de seek」は、不特定多数の出入りがある施設において体調不良の可能性のある人をリアルタイムでモニタリングすることが可能です。オフィスや公共交通機関といった場所での皆様の安心・安全に寄与いたします。



SCSKグループは、これまでに培ったノウハウやさまざまなITソリューションをご提供し、お客様をご支援してまいります。各種リリースや、新型コロナウイルス対策ソリューションはこちらからご確認いただけます。



当社IRサイトのご紹介

株主・投資家の皆様とのより良いコミュニケーションを図るため、皆様にとってより便利なサイトづくりと情報開示の充実を目指しております。

<https://www.scsk.jp/ir/index.html>



お知らせ

これまで配当通知とともに株主の皆様へお届けしてまいりました中間報告書(本冊子)につきまして、情報開示の適時性および環境への配慮の一環から、今後は冊子による発送を取りやめ、WEBサイトでの情報発信に移行することを検討しております。なお、これまでの中間報告書(PDF)は、IRサイトよりご覧いただけます。何卒ご理解いただきたくお願い申し上げます。

主な社外からの評価

- 経済産業省・東京証券取引所「健康経営銘柄」に6年連続で選定(2014年度、2015年度、2016年度、2017年度、2018年度、2019年度)
- 厚生労働省「グッドキャリア企業アワード2019」において大賞(厚生労働大臣表彰)を受賞



- 「FTSE4Good Index Series」の構成銘柄に選定(2017年、2018年、2019年、2020年)
- 「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄に選定(2017年、2018年、2019年、2020年)



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
配当金支払 基準日	期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告 して定めた日
公告方法	電子公告にて掲載。ただし、事故その他 やむを得ない事由によって電子公告による 公告をすることができない場合は、日本 経済新聞に掲載して行う。
株主名簿管理人 および特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-782-031
(インターネット ホームページURL)	https://www.smtb.jp/personal/ agency/index.html

免責事項

本報告書は、SCSKグループの業績および事業戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、SCSKおよびグループ会社の株式購入や売却を勧誘するものではありません。本報告書の内容には、将来の業績に関する意見や予測などの情報を掲載することがありますが、これらの情報は、現時点の当社の判断に基づいて作成しています。よって、その実現・達成を約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。本報告書利用の結果生じたいかなる損害についても当社は一切責任を負いません。また、本報告書の無断での複製、転記などを行わないようお願いいたします。

SCSK株式会社

〒135-8110 東京都江東区豊洲三丁目2番20号 豊洲フロント

